



東京清掃労働組合  
千代田区飯田橋3-9-3  
TEL (3237) 9995  
一部20円  
編集責任 企画・総務局 田口 康乗

わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

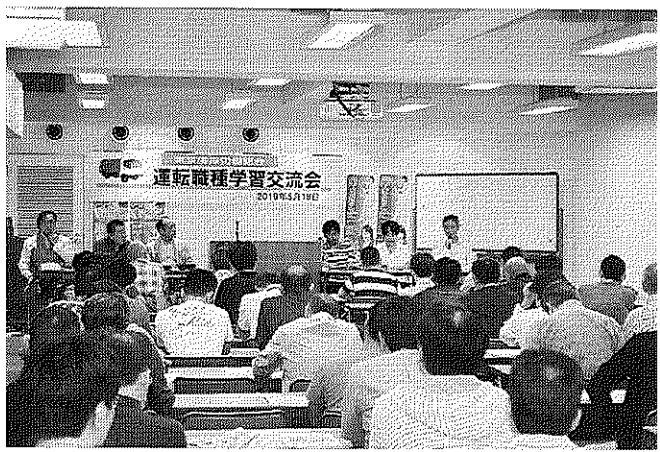
# 運転職種学習交流会開催

5月18日(土) SKホールにおいて、約4年半ぶりとなる運転職種学習交流会が行われ、運転・整備・支部役員を含めて53名の参加がありました。冒頭第一部司会司の渡辺常任中央執行委員からこの間の運転職種が



最後は参加者全員で団結がんばろう

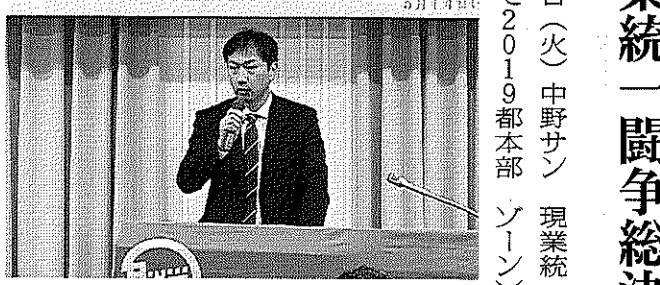
流会開催の目的が説明され、続いて主催者の中里中央執行委員長から、①の「人手不足」の現状から②区移管後20年目を迎え、③官・民を問わず運転職種も新規採用の必要性、技能の継承を行う必要性④この間の事故を振り返り、「事故率の減少」の課題⑤将来に展望が持てる事業のあり方、職のあり方を追求する必要性の5点にわたって挨拶がありました。その後、各区及び他都市の取組報告がされました。坂巻港区担当中央執行委員からの「自動車運転職種定数化に向けた



結果、今後の配置に向けた協議に一定の道筋が開けたと報告がありました。多田書記長から大阪市では、安全運転マニユアルを基に事故率減少を目指す取組、横浜市では免許取得のための予算措置等、他都市の状況について説明

取組」では、運転職種の現状や災害時等に対応するための運転職種の定数化に向けたこの間の当局との協議の経過、今後に向けた決意が述べられました。練馬事業所分會、萩原委員長から「移管以降の主な取組報告」では、環境班、あしすと事業、経理用地課への運転手の派遣研修(2018年より正式配置)等の内容が報告されました。渋谷支部神崎委員長から「担当技師長制度の交渉の結果とこれからの課題と取組について」の報告では、運転職種(軽小)の担当技師長配置に関する交渉の過程と結果、今後の配置に向けた協議に一定の道筋が開けたと報告がありました。「車がなくなると整備もい

## 2019都本部現業統一闘争総決起集会



決意表明を行う 西村副中央執行委員長

5月14日(火) 中野サン プラザにて2019都本部(ゾーン)総決起集会が開催され、20単組122名が各現場から集結しました。東京清掃からは35名参加しました。島崎闘争委員長より主催者あいさつを受け、小迫現業局長より「2019現業・公企統一闘争のさらなる推進に向けて」というテーマで講演を受けました。災害時における危機管理体制の強化やすべての労使合意事項に対する協約の締結などを重点課題と位置付けて闘争を進めること、総務省交渉を進めること、総務省交渉を基に賃金差別化を許さない思いなどが話されました。都本部分針提起は笹川事務局長より提起され、新規採用がされている単組が、各職場だけで闘うのではなく、自治労・現業評議会に結集して闘いを展開していきましょう!

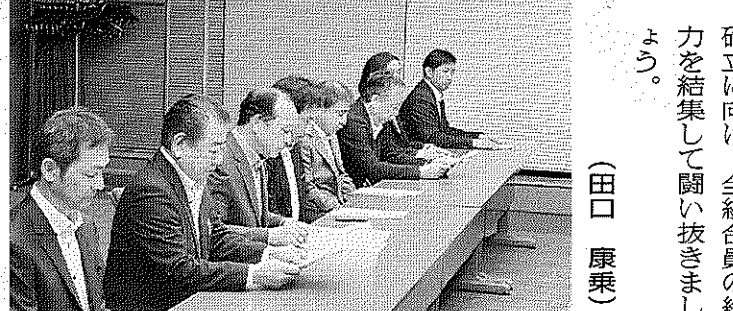
## 現業職場における人員確保のため、闘う決意を確認!!

### 2019都本部 現業統一闘争総決起集会

局長より「2019現業・公企統一闘争のさらなる推進に向けて」というテーマで講演を受けました。災害時における危機管理体制の強化やすべての労使合意事項に対する協約の締結などを重点課題と位置付けて闘争を進めること、総務省交渉を進めること、総務省交渉を基に賃金差別化を許さない思いなどが話されました。都本部分針提起は笹川事務局長より提起され、新規採用がされている単組が、各職場だけで闘うのではなく、自治労・現業評議会に結集して闘いを展開していきましょう!

## 令和元年度夏季手当団体交渉

5月21日(火) わが組合は、区長会に対して「2019年度の夏季一時金等に関する要求書」の提出を行いました。要請については、中里中央執行委員長のほうから、2019年春闘の「賃上げ」の流れは力強く維持されている状況等を踏まえ、夏季一時金の支給月数を2.5ヶ月以上の支給を求めました。また、現業系人事制度については、担当技師長の考え方各区分によって違うことから、一昨年の統一交渉で妥結した内容と異なる運用がされている区に対して「夏季一時金等に関する要求書」の提出を行いました。区長会側は、わが組合の切実な要求には応えられない状況にないとし、現行の条例、規則どおりに支給することとし、特別給の水準については、今後も国、他団体の動向を踏まえて慎重に検討していくとの回答でした。



(田口 康乗)

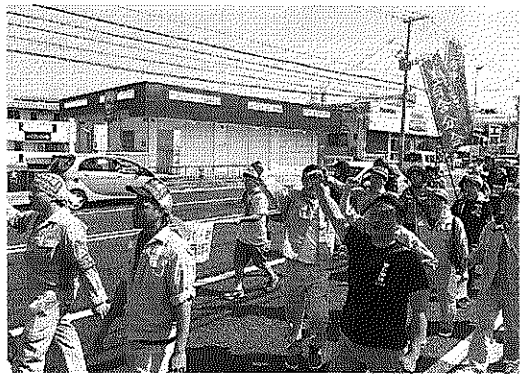
認識を打破するため、本部・地連・(総)支部が一体となって、納得のいく制度確立に向け、全組合員の総力を結集して闘い抜きましょう。

# 沖縄平和行動に参加して



5月17日(金)〜20日(月) 沖縄平和行動に参加した。私自身、沖縄の基地問題に関心がなかったわけではありませぬが、ニュースで見たり聞いたりしか把握していませんでした。実際に現地で見ると、戦争でひどい怪我を負った元兵士の人を話すと、メディアには映し出されていない部分が多くありました。本当の平和とは何なのか?と疑問に思う場面が沢山ありました。

特に印象深かったのは、糸数にあるアブラガマというガマです。この中に実際に入ってみると、入り口はとて狭く足元は非常に悪いため、「こんなところか?」と思いましたが、ガマの中は真っ暗で懐中電灯があつてやっと足元が見える状況です。「15秒だけ全員



6月23日の慰霊の日には沖縄県民だけでなく、県外からも多くの方々がお参りに来る場所となっております。またこの場所には、一歩も歩かずに済むように配慮されています。この沖縄戦の惨状を繰り返さないために、実際に現地に赴き、今置かれている現状を

「見て、聴く」ことが本当に大切なことだと私は思います。4日間を通して、一歩ずつ平和に対して何かに取り組む、平和な日本が構築されていくよう自らが行動しなければ何も始まらないことに気付きました。

今回学習したことは、沖縄県民が抱えている問題のほんの一部に過ぎないと思えます。沖縄の問題に対して身近な問題ではないからと他人事で済まされず、「自分が同じ状況になったら?」と自分に置き換えて考えるべきです。これからこの問題に対しては、日本国民なら全員で考えていかなければならない課題だと私は考えました。もしもた行ける機会ができた時には、自分自身もこの問題に対して勉強し、沖縄の人たちに寄り添えるようになり、沖縄に帰ってきたら、再処理工場に巨

「見て、聴く」ことが本当に大切なことだと私は思います。4日間を通して、一歩ずつ平和に対して何かに取り組む、平和な日本が構築されていくよう自らが行動しなければ何も始まらないことに気付きました。

今回学習したことは、沖縄県民が抱えている問題のほんの一部に過ぎないと思えます。沖縄の問題に対して身近な問題ではないからと他人事で済まされず、「自分が同じ状況になったら?」と自分に置き換えて考えるべきです。これからこの問題に対しては、日本国民なら全員で考えていかなければならない課題だと私は考えました。もしもた行ける機会ができた時には、自分自身もこの問題に対して勉強し、沖縄の人たちに寄り添えるようになり、沖縄に帰ってきたら、再処理工場に巨

額が積み込まれている。この事実を見逃さず、反対の声を挙げ続けていく事の重要性が訴えられました。その後、①北海道「泊原発」②宮城「女川原発」③福島福島第一「第二原発」④新潟「柏崎刈羽原発」⑤福井「もんじゅ」から報告があり、いずれも矛盾と欺瞞だらけの「原発行政」がまかり通って来たが、平和セクター・平和フォーラム、市民と労働組合の共同により運動は確実に前進している事を知りました。

二日目は、六ヶ所村の日本原燃本社正門前で抗議行動を行い、現場で闘っている方々の報告とアピールがあり、共に力強いシュプレヒコールを行ってました。その後、「六ヶ所原燃PRセンター」へ移動し一通り見学した後、PRセンター所長と質疑応答をしまし

た。所長は、挑発的になりがちな我われの質問に対して、冷静にかつ丁寧に回答しようとする姿勢が見受けられました。ひとつやとりを紹介すると、「原子燃料」という表現ですが、英訳は「Nuclear fuel」となっています。原子は通常、atom、atomicのはずで、Nuclearは言わずもがな、「核」である。核エネルギー研究の第一人者は米国であるから、当然その用語も日本語よりも英語が先である。では、なぜNuclear fuelを「核燃料」と訳さず

に、原子燃料としたのか。」と質問したところ、「元々そういう事になっており、なぜそうなのかは分からない」との事でした。原発と言え、第一は福島が最大の課題ではあるが、それ以外にも解決しなければならぬ事が、日本列島の北から南までいくらかでも存在している事が思い知らされました。また、そ

こで生まれ育った方々にとって、かけがえのない、愛する大地や海が汚され、危険にさらされていく様は、我われ首都圏の人間にとって想像も出来ない「痛み」なのであると痛感しました。

引き続き、反核、反原発、(台東区担当中央執行委員 鈴木 信生) として反核燃の運動を前進させていこう!

## 第34回 4・9反核燃の日 全国集会

5月11日(土)〜12日(日) 青森県にて、第34回4・9反核燃の日全国集会在開催され、初日は、「ねぶたの家ワ・ラッセ」ホールで「4・9反核燃の日全国交流集会」が開かれました。

原子力資料情報室の西尾氏からの「脱原発社会が始まった。脱再処理は?」の講演の中で、時流はまさに脱原発であり、原発再稼働が何も生み出さない事は、皮肉にも電力会社の経営陣こそが痛感しているにもかかわらず、再処理工場に巨

額が積み込まれている。この事実を見逃さず、反対の声を挙げ続けていく事の重要性が訴えられました。その後、①北海道「泊原発」②宮城「女川原発」③福島福島第一「第二原発」④新潟「柏崎刈羽原発」⑤福井「もんじゅ」から報告があり、いずれも矛盾と欺瞞だらけの「原発行政」がまかり通って来たが、平和セクター・平和フォーラム、市民と労働組合の共同により運動は確実に前進している事を知りました。

二日目は、六ヶ所村の日本原燃本社正門前で抗議行動を行い、現場で闘っている方々の報告とアピールがあり、共に力強いシュプレヒコールを行ってました。その後、「六ヶ所原燃PRセンター」へ移動し一通り見学した後、PRセンター所長と質疑応答をしまし

た。所長は、挑発的になりがちな我われの質問に対して、冷静にかつ丁寧に回答しようとする姿勢が見受けられました。ひとつやとりを紹介すると、「原子燃料」という表現ですが、英訳は「Nuclear fuel」となっています。原子は通常、atom、atomicのはずで、Nuclearは言わずもがな、「核」である。核エネルギー研究の第一人者は米国であるから、当然その用語も日本語よりも英語が先である。では、なぜNuclear fuelを「核燃料」と訳さず

## 第14回第二地連 バーベキュー大会開催!

5月12日(日)千葉県野田市「清水公園」にて第14回第二地連バーベキュー大会を開催いたしました。4区5支部の仲間、そして組合員の交流や学習を行いながら組織の強化に向け、活動を進めていきたいと思います。



今年度も第二地連一丸となつて頑張っていきますので、よろしくお願ひします。(第二地連事務局 東海林 一久)

立憲民主党参議院比例第13総支部長

# 「岸まきこ」とともに

## 自治労の政策要求を実現しよう!

自治労は、第25回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」さん(特別中央執行委員・組織対策担当)の擁立を決定しました。

岸まきこ(岸 真紀子)プロフィール  
1976年北海道若狭市(旧栗沢町)生まれ、94年旧栗沢町役職入職(現若狭市)。2013年から自治労中央執行委員。現職に至る。

- ◆ 平和な社会の実現を。
- ◆ 格差のない持続可能な社会を。
- ◆ 再生可能エネルギーで地方に活力を。
- ◆ 全世代が安心して暮らせる社会保障制度の確立を。
- ◆ 男女がともに活躍できる社会を。
- ◆ 質の高い公共サービスの持続的な提供を。

インターネットで、「岸まきこ」を検索してください。  
kishimakiko.com/

岸まきこ 検索

立憲民主党

引き続き、反核、反原発、(台東区担当中央執行委員 鈴木 信生) として反核燃の運動を前進させていこう!

脱原発の実現。エネルギー政策実現。

岸まきこ